

HAKUYU

はくゆう

特集
ありがとうの気持ち
を込めて
永年勤続表彰式

Model: ルミナリエ
Photo: O.R

HAKUYU RECIPE

06 余ったお餅をリメイク ずんだ餅

社会福祉法人博由社管理栄養士監修レシピ



材料 (2人分)

- 切り餅 4個
- 枝豆 (豆のみ) 150g
- 砂糖 大さじ2
- 塩 ふたつまみ

作り方

- 鍋に湯を沸かし、枝豆をさやごとに入れて、柔らかくなるまで(約15分)ゆでる。
- ゆで上がったらざるに上げ、さやから実を取り出し、実の表面にある薄皮を取り除く。
- 枝豆に砂糖と塩を加え、フードプロセッサーで好みの粒になるまで攪拌し、ずんだあんを作る。
- 切り餅を茹でる (または焼いても可)。
- 餅に③のずんだあんをかけて出来上がり。



餅のこぼれ話

昔から日本では、餅はお祝いごとに欠かせない特別な食べものとされてきました。東北の「ずんだ餅」は、枝豆をすりつぶしたあんをかけた郷土の味。名前の由来は「豆を打つ(ずだ)」がなまって「ずんだ」になったとも言われています。素朴でやさしい甘さは、今も変わらず人々に親しまれています。

INFORMATION

広報誌「はくゆう」の表紙写真を募集します！
博由社で働く職員の皆さんはもちろん、利用者様、ご家族様、地域の皆様どなたでも応募頂けます。
採用となった方には粗品をプレゼント♪
詳しい応募方法はHP「広報」ページをご覧ください。
みなさまからのご応募お待ちしております。

応募詳細ページはコチラ⇒



AFTERWORD

みなさん、明けましておめでとうございます。
年末年始はみなさんどのように過ごされましたか？私は食べ正月、飲み正月で、楽しく美味しいお正月を満喫しました(笑)
さて、今年は60年に一度巡ってくる丙午の年。古くから節目の年とも言われ、新しいことを始めるのにも良い年だそうです。
せっかくの特別な一年、前向きに、そして元気に過ごしていきたいですね。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

RUBLISH

社会福祉法人 博由社

〒674-0051
明石市大久保町大窪2573-16
TEL: 078-934-9161
<https://hakuyusha.or.jp/>

HP/SNS



法人HP



HAKUYU.SHA
Instagram





新年のごあいさつ

皆様、新年あけましておめでとうございます。
新しい年の始まりにあたり一言ごあいさつ申し上げます。
さて、今年は、「午年（うまとし）」です。
「午年」は、一般的に「飛躍」や「前進」を象徴し、活力・成功・繁栄・勝負運等に恵まれる年とされています。
特に2026年は「丙午（ひのえうま）」にあたり、太陽のような明るさや情熱、エネルギーが満ち溢れた縁起の良い年とされています。
社会福祉法人「博由社」をご支援いただいている皆様におかれましては、「縁起の良い年」にあやかり、ご家族とともに幸せな一年をお過ごしいただきたいと思います。
そして、私ども「博由社」は、職員の満ち溢れたエネルギーにより、各施設に入所いただいています「障害のある方」「高齢者の方」がより幸せな1年を過ごせますよう尽力して参ります。
この1年、基本理念であります「忠恕」の考え方（人の立場に立って考え、人の心を思いやり、人に尽くす）を大切に、様々な課題に対応していくことにより、「博由社」もさらに「飛躍」していききたいと思います。
余談ですが、「午年」には、過去、歴史を揺るがすような大きな出来事が起こっています。
1918年には第一次世界大戦が終結しました。
1978年には日中平和友好条約が調印されました。
1990年にはドイツ統一が実現しました。 等
今年は、世界的にまた日本で、どんなことが起こるか想像できませんが、「博由社」は一步一步地道に施設に入所いただいている皆様と歩んでいきます。
どうか、新たな一年、引き続きのご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

社会福祉法人 博 由 社
理事長 柏 由 紀 夫

INDEX

HAKUYU

- | | |
|-----------------|------------|
| #01 ごあいさつ | #07 活動NEWS |
| #02 冬号特集 | #09 ○○が教える |
| #03 職員インタビュー | #10 施設探訪 |
| #05 PHOTO DIARY | # # 冬のレシピ |

#01 ごあいさつ

R7
Nov.Dec.

令和7年度

Award Ceremony

博由社 表彰式
HAKUYUSHA

01 令和7年度博由社表彰式

12月12日に、永年勤続表彰・理事長表彰・施設長表彰の表彰状授与式が開催され、受賞されたみなさんに表彰状と副賞が授与されました。今年度は、勤続30年を迎えられた方もおられ、長年にわたるご尽力と功績に、あらためて深い感謝と敬意を表する式典となりました。



- ～表彰者～
- 【30年表彰】
加古川市立つつじ園：橋本さん
- 【15年表彰】
ハビータウンKOBÉ：中川さん 佐竹さん
西馬さん 西海さん
- 【10年表彰】
博由園：小出さん
ハビネスさつま：道脇さん
加古川市立つつじ園：福田さん
透鹿園：山岡さん 山根さん
ハビータウンKOBÉ：木村さん 小池さん 岡野さん
井上さん 福山さん 重田さん
- 【5年表彰】 12名
【3年表彰】 13名
【1年表彰】 19名
【理事長表彰】 3名
【施設長表彰】 3名、1組

02 サービス実践等報告会

第3回サービス実践等報告会が開催され、法人内の各施設がそれぞれの取り組みを共有しました。参加者はお互いの活動を知り、意見交換を行うことで、法人全体での支援向上を目指しました。

障害者支援施設 博由園 ～安心して地域で生活していくために～ 理学療法士 個別のリハビリテーション 車椅子の調整・修理・申請 福祉用具の相談・助言 自動具などの選定 ↓ 個別リハビリだけでは身体機能の維持は難しい	通所利用者一人ひとりの特性に合わせた支援や福祉用具の活用、医療的ケアが必要な利用者への対応など、地域でその人らしく生活を続けていくための支援について、多職種で連携し、それぞれの専門性を活かしながら日常生活動作の支援や体調管理、安全な動作のサポートを行っている取り組みを発表しました。	特別養護老人ホーム 透鹿園 ～特定技能実習生におけるOJTについて～ 今までのマニュアルと新しくしたマニュアル	特定技能実習生の受け入れにあたり、指導担当者だけでなく「職員全員が指導係である」という意識づけを行い、組織全体で育成に取り組む体制づくりを進め、業務マニュアルを動作ごとに写真付きで分かりやすく見直すなど、誰でも理解しやすい環境整備を行った取り組みについて発表しました。
障害者支援施設 ハビネスさつま ～生活の質を高めるために～ 弄便行動への対応 ・入所前 弄便行為から 排泄行為へ ・看護師との連携 薬の調整 ・管理栄養士との連携 食事形態の変更（粥食へ） ・支援の工夫 トイレトレーニング （トイレの習慣をつける） 改善の余地あり ・トイレの設備がない ・個室に居ることができない	管理栄養士・看護師・支援員が連携し、食事形態の調整や服薬内容の見直し、トイレ支援の工夫など多職種で連携した支援を行っています。利用者一人ひとりの状態に合わせた関わりを通して、日常生活の困りごとを軽減し、生活の質（QOL）の向上につなげる取り組みについて発表しました。	特別養護老人ホーム ハビータウンKOBÉ ～外国人向けの新人育成「OJT」の成功事例～ 写真で その場で 分かる	特定技能実習生の受け入れにあたり、職員全体で教育体制を整える取り組みを行い、実際の現場で撮影した研修動画の作成や記録の書き方の見直しなどを進め、業務内容を整理・統一することで、既存職員の業務効率も向上し、作業時間の短縮や負担軽減につながった取り組みについて発表しました。
生活介護事業所 加古川市立つつじ園 ～利用者さんの強みを活かした園芸療法～ 制作時に工夫した事 ・視覚的にわかりやすくする為、花材などを色や形ごとに分ける	利用者一人ひとりの強みを活かした支援として、制作活動や園芸活動など個々に合わせた活動を取り入れ、花を觀賞したり水やりを行うことで心身のケアを図るとともに、地域との交流を通して社会参加の機会を広げている取り組みを発表しました。		

#02 冬号特集

「ありのままで生きる」を支える場所

— 1 年目 2 年目の先輩職員に聞く —



左：濱口さん 右：原さん

堀 まず、簡単に自己紹介をお願いします。

原 はい、今年の4月に新卒で入職した原です。ハピネスさつまで生活支援員として入所棟で働いています。

濱口 昨年、新卒で入職した濱口です。ハピネスさつまの通所で生活支援員として働いています。

— 障害者支援という仕事を選んだきっかけ —

堀 お二人がこの仕事をしよう、ハピネスさつまで働こうって決めた理由は何だったんですか？

原 私は最初、子どもに関わる仕事がしたくて、保育の短期大学に入学しました。でも、授業で障害について学んだり、障害者支援施設に実習に行ったりする中で、私にはこっちの方が自分に合っているなって感じました。

堀 なるほど。何か決定的にこれ！っていう決め手はあったんですか？

原 実習で「楽しい」と感じたことと、利用者さんがありのままに生きているという感覚を受けて、障害福祉の道に進みたいと思いました。施設見学をしたときに、利用者さんが、知らない私にも話しかけてくれて、のびのびしている様子を見て、ハピネスさつましか見学しなかったんですが、この場所で働きたいって思って、決めました。

濱口 僕は剣道のスポーツ推薦で高校に進学したんですが、そこで初めて介護や保育、料理を学べる学科があることを知って、最初は難しいだろうなと思っていました。でも、3年生の時には介護の仕事に興味を持って、実習を通してやっぱり介護で働きたいと感じました。大学に行くより現場で学ぶ方が自分に合っていると思って、高校卒業後に就職を決めました。ハピネスさつまに決めたのは、原さんと同じで、見学時に利用者さんがすぐに話しかけてくれたり、自分がのびのび働けそうな環境だと思ったからです。

— 入職後の思いの変化 —

堀 実際に現場で働いてみてどうですか？

原 入職してすぐの頃は、人間関係で悩んだり、入る前に思っていたのと違うなって感じることもあって、正直あまり楽しく働けていませんでした。そんな時に、利用者さんから「今日、元気ないね」って声をかけられて、「このままじゃいけないな」って思ったんです。自分の気持ちに余裕がないと、それが相手にも伝わってしまって、利用者さんにとっても楽しい時間にならないんだなって気づきました。それからは、私生活とのバランスを大事にしつつ、困ったことがあれば上司にも相談しながら、少しずつ前向きに働けるようになって、今は楽しく仕事ができています。

濱口 最初の配属は入所棟でした。高校卒業後すぐだったので、どういう支援が正しいのか、自分が何をしたいのか分からず悩んだ時期もありました。施設長に相談したところ、通所で働くことを勧められ異動しました。通所では同じ時間帯に職員同士が関わる機会が多く、日々の支援について意見を出し合いながら仕事に取り組める環境があります。先輩の関わり方を近くで学ぶ中で、少しずつ自分のやりたい支援が見えてきて、今ではやりがいを感じながら、楽しく働けるようになりました。

堀 悩んだ時に相談できる上司や先輩がいて、環境を調整してもらえたことが、今の働きやすさにつながっているんですね。

— 仕事のやりがいと難しさ —

堀 ”福祉”という世界で働いてみて「大変だな」と感じることはどんなところですか？

原 業務的なこともそうですが、入所ではさまざまな時間帯での勤務があるため、体調管理には苦労しました。それに、利用者さんとの信頼関係を築くことにも難しさを感じました。先輩職員の声掛けには応じてくださるのに、私の声掛けにはなかなか応えてもらえないこともあり、大変でした。

堀 今でも声掛けは大変だなと感じていますか？

原 時と場合によりますね。でも、会って間もない頃は拒否的な反応が強い利用者さんもいましたが、隣に座って声を掛け続けるうちに、少しずつ話してくださるようになったり、先輩職員ではなく、私の声掛けだからこそ気持ちが届いたと感じる場面もあって、そのときはとても嬉しく、努力が報われたと感じました。

濱口 通所では送迎業務があって、保護者の方と関わる機会も多くて、関わり方には悩んだりしましたね。それに私も原さんと同じように、利用者さんとの信頼関係を築くことに悩み、壁を感じてとても悔しい思いをしました。

堀 その悩みを乗り越えるために、意識したことや取り組みんだことはありますか？

濱口 はい。利用者さんとの関わり方を見直そうと思



障害者支援施設 ハピネスさつま

〒675-0301 加古川市志方町大澤 847-35

TEL：079-453-1177 FAX：079-453-1188

い、本を読むことが好きだったので書店に行き、障害のある方との関わり方について書かれた本を読んでは実践というのを続けました。その結果、こちらから声を掛けると声を掛け返してくれるようになったり、離れた場所から名前を呼んでくれたりするようになりました。また、ご自宅まで迎えに行った際に「お、濱口くんやん」と名前を覚えてくださり、笑顔で車に乗ってくれたこともありました。そのときは本当に嬉しかったです。

堀 お二人とも、悩みや悔しさを感じながらも、それぞれのやり方で利用者さんと向き合ってきたんですね。

— 今後の目標について —

堀 それでは最後に、お二人の目指す職員像や目標を教えてください。

濱口 僕の先輩に明るくて、誰に対しても楽しそうに仕事をしている人がいるんですが、その先輩と関わっている利用者さんは、いつも笑顔なんです。どれだけ忙しそうなおきでも、笑顔で支援している姿がすごく印象に残っていて、この人を目標にしたら、自分ももっといろんな人と自然に話せるようになるんじゃないかな、と思っています。人としても、仕事の面でも本当に尊敬している先輩なので、これからの目標にしたいです。

原 今後の目標は、介護福祉士の資格を取ることで。やっぱり、何も知らないまま関わるよりも、きちんと知識を持って支援するほうが、利用者さんにも安心してもらえると思っています。先輩たちが知識を活かして支援の幅を広げている姿を見て、自分もあなりたいな、と思っています。「原さんがいたら大丈夫」って思ってもらえるような存在を目指していきたいです。

堀 お二人のお話しから、利用者さん一人ひとりと丁寧に向き合いながら、少しずつ成長していこうとする気持ちが伝わってきました。これからの活躍も楽しみにしています。今日はありがとうございました。



HAKUYUSHA

博由社の日常をお届け。

PHOTODIARY

HAKUYUSHA PHOTODIARY AUTUMNEVENT



ハピネスさつま
清掃活動🍂
みんなで落ち葉を集めて、ピカピカになりました🌟



ハピータウンKOBE
新年の飾りつけ🎄
みんなで心をこめて飾り、
お正月準備が整いました🌟



ハピネスさつま
みんなで初詣に行きました🍷手を合わせて「今年もよろしくね！」🙏
楽しく一年のスタートを迎えました🌟



透鹿園
オカリナ演奏会🎵
ボランティアさんが来てくださり、
やさしい音色にうっとりしました🌟



つつじ園
防犯訓練をしました🚒
不審者役をしっかりと見つけて、安全に確保する練習をしました🌟



博由園
新年の飾りつけ🎄
みんなで心をこめて飾り、
お正月準備が整いました🌟



透鹿園
クリスマスの準備🎄
かわいいサンタさんができあがりしました🌟



ハピータウンKOBE
ビンゴ大会🎰「ビンゴー！」の音が響いて、
みんな大盛り上がりでした🌟



博由園
クリスマスツリーの飾りつけ🎄
「どこにしようかな？」と考えながら、楽しく飾りました🌟



ハピータウンKOBE
クリスマス会🎄
職員サンタが登場して、ハンドベルの音色にうっとり♪
みんな大喜びでした🌟



ハピネスさつま
新年の書き初め🎄
心をこめて、一文字一文字ていねいに書きました🌟

ACTIVITY NEWS 5

クリスマス交流会で笑顔いっぱい 心あたたまるととき



近隣の保育園の園児さんたちと、ハピータウンKOBEの利用者さんとのクリスマス交流会を開催しました。会場に元気いっぱいの園児さんが登場すると、かわいらしい歌声が響き渡り、利用者さんも職員も思わず「かわいいね」「癒されるね」と笑顔に。会場はあっという間にあたたかな空気に包まれました。歌のお礼に、今度はサンタさんとその仲間たちが登場！ハンドベルの演奏やマジックショーを披露し、園児さんたちは目を輝かせながら大喜び。拍手と歓声があふれ、利用者さんも一緒に手拍子をしながら楽しませていました。そして最後は、サンタさんから園児さんへクリスマスプレゼント。プレゼントを受け取った園児さんたちはニコニコ笑顔で、「ありがとう！」と元気いっぱい。利用者さんや職員もその姿に自然と笑顔がこぼれ、心あたたまると時間となりました。世代を超えた交流を通して、たくさん笑顔と優しさが行き交ったクリスマス交流会。これからも地域とのつながりを大切にしながら、楽しいひとときを共有していきたいと思ひます。

ばんたんゆうあい作品展に出展しました



11月に開催されたばんたんゆうあい作品展に、ハビネスさつまも参加・出展しました。今回は、入所と通所それぞれの利用者さんが作品づくりに取り組み、個性あふれる作品を展示しました。入所では、色とりどりのきれいな花からチョウが飛び出す作品を制作しました。チョウが今にも舞い上がりそうで、見ていて思わず「かわいい」「春みたいでいいな」と感じる、明るくあたたかい作品に仕上がっていました。通所では、ハロウィンをテーマにしたランタンを制作しました。オレンジや黒を基調にしたデザインに、表情豊かな顔が描かれ、見ているだけで楽しい気持ちになる、ハロウィンらしい作品に仕上がっていました。



安全・快適・気持ちいい ～利用者さんの空間改善～

使う人の目線で考える5S活動

整理整頓や環境改善というと、職員が使う場所や作業効率を意識した取り組みになりがちですが、利用者さんが日常的に使う場所こそ、快適さや安全性が大切です。毎日何気なく使っているベンチや運動スペースも、少しの工夫でぐっと使いやすくなります。

座る場所をきれいに

利用者さんが休憩の際に座られるベンチは、長年の使用により色あせや傷みが目立ってきていました。そこで今回、ベンチの塗装を行い、見た目も明るく清潔感のある印象に整えました。きれいになったベンチを見ると、自然と気持ちも明るくなり、「きれいになったね」「座りやすい」といった声も聞かれました。毎日使う場所だからこそ、安心して気持ちよく使える環境づくりが大切だと改めて感じました。



写真
左上：運動スペース改善前 右上：運動スペース改善後
左下：屋外ベンチ改善前 右下：屋外ベンチ改善後

動きやすさを考えた整理

屋内の運動スペースでは、使われていない物や不要な物が置かれており、動線が狭くなっている状態でした。そこで一度すべてを見直し、不要な物を排除して整理整頓を行いました。その結果、スペースが広くなり、つまずきや転倒の心配も減り、より安全に体を動かせる環境になりました。見た目もすっきりし、利用者さんも安心して運動に取り組める空間へと変わりました。

今後に向けて

これからも利用者さんの目線に立ち、「過ごす」場所がより快適になるよう、5S活動を継続していきます。小さな改善の積み重ねが、安心して過ごしやすい環境づくりにつながるよう、職員一同取り組んでいきたいと思ひます。

基本理念の オハナシ #5

博由社の基本理念である「忠恕」は昭和57年の博由社設立以来、一貫して掲げられている理念です。設立者である西大條博先生は、生活困窮者の方々を無償で治療されるなど、誠実と思ひやりの心をもって人に尽くされました。この「忠恕」という言葉は「真心と思ひやりの心」と読み替えられ、私たちはその意味を日々の活動の中で理解しています。

忠恕は孔子の言葉にも通じます。「忠」とは自分の良心に誠実であること、「恕」とは相手を思いやる心を意味します。現代的に解釈すると、「自分がされて嫌なことは人にしない、自分がされて嬉しいことを人に行う」といった自然な思いやりの行動です。私たちはまだ未熟で自然に行うことは難しいですが、福祉のプロとして常に意識的に行動する中で忠恕の道が開けてくるのではないのでしょうか。

加古川市立つつじ園
橋本剛志

働き方改革～骨髄ドナー等・出生サポート休暇導入～

博由社では、職員一人ひとりが安心して働き続けられる職場づくりを目指し、働き方改革を推進しています。このたびその一環として、「骨髄ドナー等休暇」および「出生サポート休暇」を新たに導入しました。

骨髄ドナー等休暇

骨髄・末梢血幹細胞の提供にあたり必要となる検査や入院、提供後の回復期間などを対象とした休暇制度です。命をつなぐ大切な活動を、会社としてしっかり支援します。

出生サポート休暇

不妊治療や検査、通院などに対応するための休暇制度です。治療と仕事の両立に不安を感じることなく、安心して取り組める環境づくりを目的としています。

これらの制度は、職員の多様なライフステージや価値観を尊重し、「誰もが自分らしく働ける会社」を実現するための取り組みです。今後も制度の充実や職場環境の改善に継続して取り組んでまいります。



ハラスメント研修 を開催

講師に、宮本社会保険労務士事務所の宮本 真理子氏をお招きし、ハラスメント研修を開催しました。パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなど、実際に起こり得る身近なケースをもとに、どのような言動がハラスメントに該当するのか、また受け取り方の違いについても分かりやすく学びました。参加した職員からは「自分では気づいていなかった言動に注意しようと思った」「相手の立場に立って考えることの大切さを改めて感じた」といった声が聞かれました。

ビーチクリーン in あかし対話と共創ウィーク 今年も海岸清掃に参加。



3回目の参加となる、ビーチクリーン in あかし。今年も晴天に恵まれ、気持ちの良い気候の中、大蔵海岸にて清掃活動を行ってきました。集まったゴミは、タバコの吸い殻、釣り糸、飲み物のカップなどさまざま。「ちょっとぐらいいいか」「1本ぐらい捨てても見つからないよね」という気持ちの積み重ねが、海岸のあちこちに残っていました。参加者たちは、軍手をつけて丁寧にゴミを拾いながら、自然の美しさを改めて実感。毎年少しずつですが、こうして集めることで景色がきれいになることを嬉しく感じています。



強度行動障害って何？

「強度行動障害」という言葉を聞いたことはありますか？
今回は、生活支援員が強度行動障害について分かりやすくお伝えし、
加古川市立つづき園での取り組みをご紹介します。

「強度行動障害」ってなに？



強度行動障害とは、日常生活の中で、とても強い行動が続いて表れる状態のことをいいます。
例えば、



自分を傷つける



人や物に強くあたる



不安が大きくなる

といった、本人はもちろん、関わる人にとっても安全を守ったり、安心した生活が続けることが難しくなる場合があります。
特別な配慮や、その人に合った専門的な支援が必要とされる障害です。

強度行動障害は生まれつきの特性ではなく、いくつかの要因が重なって現れる行動パターンです。背景には、思いを言葉で伝えにくいこと、感覚の過敏や鈍感さ、環境の変化による不安、体調不良や痛みの表現の難しさなどがあります。
例えば、感覚過敏の人は物音や話し声がつかなくても、言葉で伝えられず机を叩いたり頭を抱えたりすることがあります。

なぜ起こるの？

音がうるさい



周囲がうるさく感じる

落ち着かない



耳をふさぐなど我慢

我慢できない



机を叩くなどの行動

どう対応していくの？

つづき園では受容的交流療法を大切にしています。
利用者一人ひとりが、安心して思いを表現できる関係づくりを大切にしています。信頼関係を最優先に、利用者が不安を抱える前に気づき、寄り添いながら支援する姿勢を常に心がけています。

関係性の構築

運動：正しい動きを運動や課題の中で作っていき、支援員の話聞いて行動出来るようになっていきたいと考えています。

作業：作業を通して関係性を作ります。一緒に何かをすることで、励まし、応援、本人の努力があって「出来た」という達成感を共有します。

環境を整える

音・光・人の動きなど、刺激を減らし落ち着ける空間をつくります。スヌーズレン室やパーテーションの使用、イヤーマフ等を使います。

チームで支える

ミーティングや個別支援会議について情報を共有します。
医療・家族・関係機構と連携も大切にしています。



パーテーション



スヌーズレン室

私のオススメ この場所が好き。

障害者支援施設 博由園

夜にはライトアップ
されていて
さらに綺麗に見えるよ♪



01

rooftop

屋上から見る景色

私のおすすめは、建物の屋上です。
ここからは、雄大な明石海峡大橋を一望することができ、時間帯や季節によって表情を変える景色を楽しめます。さらに、視線を下ると施設前に広がる池の水面がきらきらと光り、空や周囲の緑を映し出す様子も眺めることができます。
青い海と空に架かる大橋、そして穏やかな池の風景を同時に楽しんでいると、日々の忙しさを忘れ、心が自然と落ち着いていきます。風を感じながら景色を見渡すこのひとときが、私にとって大切なリフレッシュの時間です。



02

Office Glico

幸せな時間

夏も冬も休憩のひと時に
食べるアイスが
最高に美味しい！



私のおすすめは、オフィスグリコです。
ちょっと小腹が空いたときや気分転換したいときに、気軽に立ち寄れる身近な存在。お菓子やドリンクを選ぶ時間が、仕事の合間のさやかな楽しみになっています。
忙しい毎日の中で、ほっと一息つけるオフィスグリコは、私のお気に入りの場所です。

03

vegetable garden

自然とのふれあい

私の好きな場所は、畑です。
土に触れ、季節の変化を感じながら過ごす時間は、心が落ち着きます。利用者さんと一緒に作業をし、成長や収穫の喜びを分かち合えるこの場所が、私にとって大切な空間です。



04

time with users

共に過ごす場所

私の好きな場所は、利用者さんと一緒に過ごす空間です。
日常の中で交わす会話や、何気ない表情に触れられるこの場所には、安心感と温かさがあります。同じ時間を共有しながら、笑顔が生まれる瞬間を大切にしています。
利用者さんと過ごすこの場所が、私にとって心落ち着く大切な居場所です。



BBQ大会に花見に夏祭り、
利用者さんと作り上げる
イベントはどれも最高に
楽しい♪